

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2013.3.31 No. 48

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

・中村維佐美「露口卓也氏「八重という女性—その生き方」を聞いて」	1
・桜井 昭男「[大学アーカイヴズの社会貢献]をめぐって」	3
・清野 早苗「第82回研究会(馬場弘臣氏報告・寺崎昌男氏講演)に参加して」	5
・榎本 満江「児島聡氏「資料の保存とアーカイブについて —大学アーカイブとプリザベーション」を聞いて」	6
・(新刊紹介)『『慶應義塾150年史資料集』基礎資料編1(塾員塾生資料集成)—刊行』	7
・全国大学史資料協議会2012年度総会議事録・記念講演記録	8
・全国大学史資料協議会2012年度役員会議事録	10
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	10
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	13
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	18

2012年10月10日～12日 全国大学史資料協議会2012年度総会ならびに全国研究会・記念講演

露口卓也氏「八重という女性—その生き方」を聞いて

獨協学園史調査研究資料センター 中村 維佐美

平成24年度の全国大学史資料協議会2012年度総会ならびに全国研究会は、京都の同志社大学今出川キャンパスで10月10日(水)から12日(金)まで行われた。10月初旬の日程は例年どおりであったが、参加率は近年稀に見る高さであったようだ。この時期の京都の魅力は絶大で、私も出張の必要性を上司に熱心に訴え、参加することができた。全国総会・研究会参加も同志社大学の訪問も初めてであった。

同志社大学の印象は、まずロケーションから特徴を感じる。京都はまさしく歴史の街であり、同志社大学はその中心に位置し、街の

中に溶け込んで存在している。キャンパス内は、建物が煉瓦造りで統一されており、また景観上の問題から高さ規制もあるので、近代的なビルのような学舎とは風情が違っている。その建物の中には重要文化財が複数有り、まさしく重厚で圧巻であった。

そして露口先生(同志社大学同志社史資料センター所長・文学部教授)の講演は、当初の予定を変更し、タイムリーということで新島八重さんを取り上げるとの説明があった。私は、これまで八重さんについて特に詳しく知る機会がなかったことや、大河ドラマの裏側を垣間見られるような、先取りできる

ような庶民的なうれしさを感じた。

露口先生の説明は、八重さんの言葉を基にその心情を解説する進め方で、八重さんの存在がリアルに感じられた。そして先生は、八重さんの人生を時代に合った生き方と表現されていた。時代とは、八重さんが生まれた江戸末期から明治・大正・昭和までの歴史的な時代の流れと、八重さんの生き方から、その人生を大きく四つに分けた時代のことである。会津で鉄砲を撃ち男性に交じって籠城していた時代、京都へ移り西洋文化を颯爽と取り入れた時代、夫が亡くなった後の医療活動に活躍した時代、それから茶道の世界を極める晩年の時代と、まさしく日本の激動に合わせて人生を何人分も体験したかのように生きた。

今回は会津で籠城していたときの様子や心情について詳しく拝聴することができた。会津藩の立場や時代による女性の立場など、戦さにはさまざまな背景が存在していたようだが、八重さんの行動で際立つところは、孤立を恐れない強さだと思った。その後のどの時代においても同様に、常に自分で判断し行動をしている。現代でいえば周りに流されず、空気を読んで萎縮することもなく、自分の信条を貫いている。これは会津魂によるところが大きいと思う。人生において故郷で体験したことが、どの人にも魂となって宿るのだと感じた。

また、籠城中、戦況が悪化していく様子を客観的に見ている八重さんの言葉がある。そして落城後も悔しくても取り乱すようなことはなく、現状を直視し、目を背けずに歌を詠んでいた。歯がみをしながら、夜中の十二時頃に月を見上げ、明日には城を明け渡す心情を歌に残している。「明日の夜はいつくの誰かながむらんなれし御城に残す月影」は八重さんの有名な歌の一つである。晩年にはこの戦さのことは余りにもひどく悲しく、思い出ただけでも涙が出るといっていたので、この歌を詠んだときの気持ちは敗戦の無念さでいっぱいであつたろうが、明日という言葉で始まるのは、明日からの城や会津藩の行く末



講演する露口卓也氏

に合わせて、自分の明日からの生き方も、きつと考え巡らせていたのだと思う。

八重さんはどんな状況でも冷静さを失わず、今現在からその次へ進む道を考え、必ず実践し極めている。これはこの時代の女性にとっては、大変な困難を伴ったことと想像するが、現代に置き換え考えてみても真似できる人は少ないであろう。

夫新島襄や兄山本覚馬の視点から、八重さんの性格を表した言葉が紹介されている資料もあったが、そこからは、二人が八重さんと対等の立場である同志のような関係であることが感じられた。新島夫人あるいは山本覚馬の妹などの誰かの附属品的な立場を超えて、自分の意志を持った人間として存在していた。そして、この二人の男性が八重さんの意志を尊重していたことにより、八重さんは人生において志を貫き通すことができたと思われる。いつの世にもうらやましい信頼関係である。

また八重さんが学生と一緒に写っている写真を見つけたとき、私は学生達の表情に注目した。八重さんが未亡人となり一人で生活していた屋敷を学生達が訪ねて来ていたそうだが、八重さんからどのようなお話を聞いたのであろうか。学生達の目は力強く頼もしくみえた。八重さんには人に生命力を与える能力があつたように思う。

八重さんに関しては、同志社大学でも未だ

解明されていない部分もあるそうなので、この機会に資料収集等進展することが待ち望まれる。また、この原稿執筆中にはNHKにおいて「八重の桜」撮影の様子が放映されており、主人公の女優さんは本人より少し細身だが、会津弁をしっかりと勉強し奮闘していた。八重さんの魂が番組から伝わり、少しでも東日本の復興に貢献されることを祈念したい。

八重さん本人であれば、どのような言葉で故郷被災地を勇気付けるのか想像し、自分も出来ることは何かを考えよう。

今回の総会・研究会では同志社大学の方々はじめ関係者の方々に大変お世話になった。お陰様で有意義な会となり、参加させていただき本当に良かったと思う。有難うございました。

全国大学史資料協議会 2012 年度全国研究会

「大学アーカイヴズの社会貢献」をめぐって

淑徳大学アーカイブズ 桜井 昭男

平成24年(2012)10月10日から12日までの3日間、京都の同志社大学今出川校地において全国大学史資料協議会2012年度総会・全国研究会が開催された。このうち、10月11日に行われた全国研究会のテーマは「大学アーカイヴズの社会貢献」で、

折田 悦郎氏

(九州大学大学文書館)

「大学アーカイヴズと地域貢献

—九州大学の歴史を通じて—

小枝 弘和氏

(同志社大学同志社社史資料センター)

「福島県と同志社

—震災復興をめぐって—

村松 玄太氏

(明治大学明治大学史資料センター)

「大学アーカイヴズ構築資源の有用性をどうアピールし社会連携するか？

—明治大学史資料センターでの経験を踏まえて—

の御三方の報告ののち、活発な討論が展開された。本稿では、この全国研究会における報告とそれをめぐる討論について感じたことを述べてみたいと思う。

まず、今年度の全国研究会のテーマについて、「大学アーカイヴズの社会貢献」を設定した理由について、大学アーカイヴズの役割



総括討論の様子

として「教育」及び「研究」に加えて「社会貢献」が第3の使命として位置づけられるとした上で、「大学」の社会貢献と「大学アーカイヴズ」の社会貢献の関係について検討することを提起された。大学の社会貢献についてはつとに言及されているところであるが、この問題提起はこのような状況においてこれまで大史協及び大史協に加盟する諸機関がそれぞれ行ってきた活動をどう位置づけ、さらに展開させていくべきかという重要な論点を提起したもので、大学アーカイヴズが果たす役割について議論を深めようとするにあたっての、まさに時宜にかなったテーマ設定であった。

折田報告は、まず明治36年(1903)に京

都帝国大学福岡医科大学が創設され、明治44年(1911)の九州帝国大学創立時に工科大学が創設されたという九州大学の成り立ちに規定された歴史を前提として、まさしく地域の要請として農学部や理学部などその他の学部が設置されてきた流れを「地域の大学」の歴史と捉え、地域で果たしてきた九州大学の役割について詳しく紹介された。

小枝報告は、平成25年(2013)のNHK大河ドラマ「八重の桜」に対する種々の協力の過程で行った、東日本大震災の被災地域に対する復興支援をめぐる報告であった。言うまでもなく大河ドラマの主人公である八重は同志社大学の創設者新島譲の妻で、会津の出身であることから、同志社大学としては「大学の故郷」ともいべき地域との交流という重要なテーマを提示した内容であった。

村松報告は、明治大学創立130周年記念事業を通して明治大学史資料センターが行った活動を通して、「大学アーカイブズ構築資源」というキーワードを用い、この資源を用いて大学アーカイブズとして社会にどのように情報を発信していくかという論点を提示したものであった。そこでは、大学アーカイブズを大学と社会とを結ぶ「接着剤」と位置づけ、いわば「臨床医」的視点で対象・処方・効能を追求することの重要性を指摘された。

討論では、大学アーカイブズが所有する「資産」を「資源化」し、さらにそれを「社会化」することの重要性が指摘されるとともに、さまざまな問題点を含みながらも広くメディア等を利用することによって、社会貢献を「可視化」することの重要性も指摘された。また、地域の図書館や文書館等の施設と連携することについても議論は及んだが、しかし論点はあらためて大学アーカイブズの「社会貢献」とは何なのかという根本的な問題に回帰していったように感じた。大学は研究や教育によって「社会貢献」を果たすことができるが、では大学アーカイブズの「社会貢献」とは何か。

これはまさに大きな問題であるが、ちなみに筆者が勤務する淑徳大学アーカイブズでは

「淑徳大学アーカイブズ史料講読会」を組織し、大学が所在する千葉市内の方がたの協力を得、月2回アーカイブズが所蔵する史料を中心とした地域史料の解読作業を行うことによって、地域との連携活動を行っている。また、「福祉の淑徳」といわれる本学の特徴を活かすため、現在日本学術振興会科学研究費助成事業の学術研究助成基金助成金(基盤研究C)の交付を受けて、「社会福祉施設における文書等のアーカイビングに関する事例研究」というテーマで研究を進めている。この研究は、いくつかの社会福祉施設の協力を得て、それぞれの施設が所蔵している現用文書も含めた文書の全体像を把握し、社会福祉施設にどのような文書が保存され、かつ作成されているのかを明らかにするとともに、社会福祉施設における文書の管理・保存体制の構築をめざすものである。さらに、淑徳大学アーカイブズで毎年開催している特別展では、平成23年度が「近代日本における感化教育の黎明期—東京感化院と千葉感化院—」、平成24年度が「幕末房総における育児事業の系譜—子育て善兵衛・仁兵衛兄弟の実践—」と、大学関連以外に社会福祉史をテーマとした展示を行っている。

それぞれの大学の成り立ちが異なるのと同様に、大学アーカイブズのありかたもそれぞれに固有の「社会貢献」があるだろう。報告されたそれぞれの事例がまさにそのことを示していた。今回の議論に参加することで、大学の事務文書等の保存とその公開によって社会的責務を果たすのはもちろんのことながら、まずは各大学アーカイブズがそれぞれでできることを模索・実践していくことが必要であり、その上でそれらの実践情報を大学間で広く共有することが大切であるという感想を持った。大学アーカイブズの「社会貢献」という問題は、これからの大学アーカイブズのあり方を見据えた時にやはり重要な問題であり、今回の研究会は大学アーカイブズの大きな課題を提起したものとして、意義のある研究会であったといえよう。

2012年12月13日(木) 研究会

第82回研究会(馬場弘臣氏報告・寺崎昌男氏講演)に参加して

慶應義塾福澤研究センター 清野 早苗

研究会は2012年12月13日(木)13時より東海大学湘南キャンパス15号館4階で開催された。当日は東海大学の学生や教職員も参加して席が足りなくなるほどの盛会だった。

はじめに馬場弘臣氏(東海大学教育研究所准教授)による「東海大学学園史資料センター資料目録検索システムについて」の報告があり、次に寺崎昌男氏(立教学院本部調査役・東京大学名誉教授)により「学びがいのある大学づくりと学園史・アーカイブスの役割」と題する講演が行われた。

以下、馬場弘臣氏による報告について記す。システム構築の経緯については、2011年10月システム開発開始から2012年10月末システム公開まで僅か1年という短い期間で実現できたと同い驚いたが、その理由として、既存システムの採用とシステムに強い人材の存在が大きかったと伺い納得できた。

検索システムの特徴としては、「資料目録検索」のマルチコンタクトサーチ、分類階層検索、校舎群検索と、「記事見出し・目次検索」が挙げられた。いずれも所蔵資料の性格や学内の事情および将来の利用状況に適したものと思われた。最後に「成長するシステムをめざして」ということで今後の意気込みを伺うことができた。

今回のご報告は近い将来にシステム構築や公開を考えている機関として同じような事情や悩みを抱えているだけにたいへん参考になった。これまでのご苦勞を想いながら馬場氏に感謝申し上げたい。

以下、寺崎昌男氏による講演について記す。講演は、はじめに、1. 大学が抱える問題、2. 沿革史のこと、3. アーカイブスのこと、おわりに、という内容で進められた。

大学が抱える問題では、産業界等からの「大



寺崎昌男氏の講演を聞く参加者

学は役に立っていない」「GNPに貢献していない」等の様々な非難や批判があって、それに対して様々な反応があるが、いずれにしても大学の本質が問われている。それは率直に受け止めるべきと述べられた。

沿革史のことでは、各校の沿革史が初期の私的自校愛的な性格を脱してアカデミックな水準を上げ、現在では通史プラス資料集という形が普通になってきたと伺い、現在自校で進めている資料集の作成意義を改めて感ずることができた。また、今後は歴史的な点検評価を行う上で今まで軽視されがちだった情報(例えば、入試問題の変遷等)も重要になってくる、国策で設立された国立大学の場合は創立理念に代わるものとして大学が歩んできた歴史(どのような選択をしてきたか)の解明が必要、等の示唆に富んだお話を伺うことができた。

アーカイブスのことでは、大学アーカイブスが基本に戻ることを指摘され、ヨーロッパの伝統である記録の保全・保存と米国の大学の地域貢献を挙げられた。また、米国ではアーカイブスは高く位置づけられていてアーキビストも信念を持って働いていると伺い心強く感じた。

最後に印象に残ったお話を2つ挙げる。ひとつは、自校教育によって学生が自分の大学

の特徴と独自性に気づき元気づく。マイナスの歴史も隠さず伝えた場合にも学生は揺らがなかった。これは沿革史への大きなエールと言える、というもの。もうひとつは、アーカイブスの仕事は実質は3K（例えばマスクをかけて古い資料を分別する）であること、そう

いう実情についても知ってもらふ努力が大事、というもの。

今回の講演をお聞きしてアーカイブスの役割を再認識することができたと思う。厳しさと温かさを同時に感じ、たいへん励まされた。寺崎氏に心より感謝申し上げたい。

2013年1月24日（木） 研究会

児島聡氏「資料の保存とアーカイブについて —大学アーカイブとプリザベーション」を聞いて

立正大学史料編纂室 榎本 満江

第83回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は2013年1月24日（木）14時より、専修大学神田キャンパス7号館3階731教室にて開催された。

今回は株式会社東京修復保存センターの児島聡氏により「資料の保存とアーカイブについて—大学アーカイブとプリザベーション」と題した講演が行われた。

はじめに1966年のイタリアの水害による歴史的文化財の損害を契機に1973年IFLA（国際図書館連盟）に資料保存のワーキンググループが出来たこととその後経緯が時系列に語られ、1986年の「IFLA 資料保存の原則」という動きの中から資料保存（「プリザベーション」と「コンサベーション」）という言葉が使われ始めたことが説明された。

2009年に日本図書館協会より刊行された『資料保存の調査と計画』では「コンサベーション」は補修と予防を施すことであり、「プリザベーション」は保管環境の整備、代替、保存状態・保存環境の調査、利用頻度の調査、保存の取り組みの現状把握、災害対策、資料取扱いに関すること等を総合的に実施することと定義されており、プリザベーションの傘の下にコンサベーション（製本・補修、予防、脱酸など）もあると解説された。

次に、東京大学経済学部資料室の小島浩之氏の提案が紹介され、「プリザベーション」とは「戦略」で長期的、大局的、原則的なも



講演する児島聡氏

の、「コンサベーション」とは「戦術」で戦略に基づく個々の具体策である、との説明がされた。

そして、「文書館用語集」の解説からさらに「プリザベーション」は欧州ではコンサベーションといい、レストレーション（修復）も含むもので、プリザベーション・アドミニストレーター（保存管理者）がアーカイブにとって重要な役割を果たしているとの説明がされた。

それらを踏まえて、児島氏の東京修復保存センターでは戦略に基づいた戦術のサポートをする仕事と実行部隊としてのコンサバターとして、大学アーカイブのサポートをしていると説明された。

「大量資料の保存」における問題点の一つは保存用品に掛かるコストが高価であるとい

うことがあげられる。その解決策の一つとして「スマファイ」という保存用品が提案された。大量資料の保存計画を立てるときはA貴重資料、重要で長期に保存をするもの、B重要資料、その組織にとって特徴的なもの、C年々増え、他にもあり、廃棄可能なもので短期的に保存するものにと分類できるとした上で、Bを中間的保存、概ね30年の保存としてとらえ、中間的な保管を目的としたコストパフォーマンスの高い用品であるスマファイを中性紙の段ボールで開発した経緯が語られた。また、実際の導入事例として中央大学、東海大学、日本大学、日本女子大学成瀬記念

館、白百合女子大学児童文化研究センター、国学院大学図書館等の事例が報告された。

一般的な中性紙保存箱に対して約3分の1のコストで調達できる保存用品、スマファイは魅力的である。見本として小型のスマファイが配布されたが簡単に組み立てられ利用しやすいと感じた。多くの大学での事例が紹介され、保存を施す現場にとって参考となるものであった。

講演後の質疑応答では多くの質問がなされ、関心の高さを物語っていた。

このような有意義な情報をご提供下さった関係各位に感謝申し上げます。

新 刊 紹 介

『慶應義塾 150 年史資料集』基礎資料編 1（塾員塾生資料集成）— 刊行

慶應義塾は創立150年記念出版物として、『慶應義塾 150 年史資料集』の刊行を開始した。まず別巻として『慶應義塾史事典』（2008年）『福澤諭吉事典』（2010年）を刊行し、昨年10月に、本編第1巻となる基礎資料編『塾員塾生資料集成』を出版した。これは、入学時の記録である「慶應義塾入社帳」（文久3年～明治34年）と、成績表にあたる「慶應義塾学業勤惰表」（明治4年～31年）、卒業生名簿の「慶應義塾塾員名簿」（明治23年～）という3つの資料（年代により多少名称に異同がある）を利用して、明治16年末までに入学した人物4940人について、個人別に名前、出身地、身分、保護者、保証人、保証人の身分・住所、在籍の課程、判明した履修科目、卒業後の職業、住所、原籍などの

380 岩崎（改姓：福沢） 桃介	
a. 埼玉県 b. 入間郡川越本町 c. 平民 f. 岩崎紀一・次男 h. 14年5ヶ月 i. 真野 観我 j. 東京芝虎門前 k. 明治15年10月5日 m. II 520 n.	
年・月	等級
159~12	予科 / 番外ノ二、漢学科 / 甲組ノ二 登録
161~4	予科 / 番外ノ一、漢学大試験 / 乙組
165~7	予科 / 四番ノ二、漢学大試験 / 乙組
169~12	予科 / 四番ノ一
171~4	予科 / 三番、予科 / 四番之一
175~7	予科 / 二番
179~12	予科 / 一番
185~7	本科 / 四等
189~12	正科本科 / 四等 登録
191~4	正科本科 / 二等
195~7	本科 / 二等
199~12	本科 / 一等
o.	
年	職業
明治34	丸三商店員
明治35	北海道炭礦鉄道株式会社幹事
明治38~39	北海道炭礦鉄道会社員
明治40~43	会社員
明治44~大正1	日本瓦斯株式会社 其他諸会社重役

データをまとめたものである。

もともとなった資料はいずれも公開はされていたものであるが、これまで利用は便宜とはいえなかった。まず入社帳は、他の情報と合わせないと判別し難いくずし字も多い。勤惰表は、全塾生を成績順に並べて印刷してあるため、目当ての人物を見つけるには端から探さなければならない。塾員名簿はイロハ順ではあるが、たとえば梅田は「ウ」のことも「ム」のこともある。また当時は家督相続などで今



より頻繁に改姓が行われるため、その名前での記載がなくなったからといって、簡単に退学や死亡とは断定できない。そして印刷物である勤惰表や塾員名簿には、非常に誤植が多い。「次郎」の「次」の字が「二」や「治」になる程度は、当時の用法として許容範囲であるとしても、「三郎」や「四郎」とすら記され、それでは普通別人である。「土方雄志」が「立方確志」になることもある。また厄介なのは、入学の記録がないのに成績の記録があったり、成績の記録がないのに卒業の記録があったりする人物もいることである。

この第1巻では一旦入社帳、勤惰表、明治

期塾員名簿の全データを入力し、整理をしながら名寄せを行った。これまで特に地方史研究に携わる方々から、該人物が慶應義塾で学んだかどうか、あるいは卒業後どうなったかといった質問をしばしば受けた。一覧にすることで、一目瞭然になったかと思う。しかしながら、まだ読み違いや把握できていない改姓情報もあろう。ぜひ調査研究にお使いいただき、新しい情報をお教えいただければ大変ありがたく思う。入手方法については、福澤研究センター（03-5427-1604 <http://www.fmc.keio.ac.jp/>）にご連絡いただきたい。（慶應義塾福澤研究センター 西澤 直子）

全国大学史資料協議会 2012年度 総会議事録・記念講演記録

日 時 2012年10月10日（水）
14時30分～15時20分

場 所 同志社大学今出川校地
寧静館5階会議室

出席会員＜東日本部会＞

愛知大学 学習院 神奈川大学
関東学院 国立音楽大学 慶應義塾
恵泉女学園 皇學館大学
國學院大學 国士舘大学 駒澤大学
芝浦工業大学 淑徳大学 上智大学
女子美術大学 専修大学 創価大学
大東文化大学 拓殖大学 中央大学
東海大学 東京農業大学
東北学院大学 東洋学園大学
獨協学園 富山大学 日本医科大学
日本体育大学 日本大学 法政大学
北海道大学 武蔵野美術大学
明治学院 明治大学 明星大学
立教大学 立正大学
阿部 伊作 細見 大作

＜西日本部会＞

追手門学院大学 大阪国際学園
大阪女学院 大阪大学
大阪府立大学 大谷大学 関西大学

関西学院 京都産業大学 近畿大学
熊本大学 甲南大学 神戸女学院
西南学院大学 同志社大学
名古屋学院大学 梅花女子大学
広島大学 福岡大学
武庫川女子大学 桃山学院 立命館
龍谷大学 折田悦郎
富岡 勝 橋本 弘之 大畑 博嗣
東日本部会＝39会員56名
（内訳：37大学54名、個人他2名）
西日本部会＝27会員42名
（内訳：23大学38名、個人他4名）

総 計＝66会員98名

（内訳：60大学92名、個人他6名）

欠席届提出会員

東日本部会＝36会員
（内訳：機関19、個人他17）
西日本部会＝14会員

司 会 大阪大学 菅 真城氏

（全国大学史資料協議会事務局校）

会場校挨拶 同志社大学学長 八田 英二氏
開会に先立ち、司会より総会成立
の報告があった。

開会挨拶 桃山学院 西口 忠氏（全国大学
史資料協議会会長校）

議長選出 議 長 日本体育大学
遠藤 茂樹氏

副議長 神戸女学院

佐伯 裕加恵氏

議 題 1. 全国大学史資料協議会役員会の報告について（報告事項）

事務局校（大阪大学・菅真城氏）から、本総会開催に先立ち開催された全国役員会での審議内容について報告された（※全国役員会審議内容は「2012年度役員会議事録」を参照のこと）。

2. 2012－13年度役員交代について

事務局校から会長校として國學院大學、副会長校として立命館大学、事務局校として日本大学を選任したとの報告があり、全会一致で承認された。

3. 2012年度東・西日本部会事業計画報告（報告事項）

東日本部会事務局（日本大学・松原太郎氏）、西日本部会庶務校（大阪大学・菅真城氏）から、各部会事業計画書に基づき本年度の事業計画が報告された。

4. その他

特になし。

新会長校挨拶 齊藤 智朗氏（國學院大學）

記念講演 講師 露口 卓也氏

（同志社大学同志社社史資料センター所長・文学部教授）

演 題 「八重という女性—その生き方—」
〔概 要〕

冒頭で「今回は話題の八重をテーマに選んだ」「NHK大河ドラマ『八重の桜』の制作が決まって以来、今まで全く注目されていなかった新島八重に関する本が続々刊行され影響の大きさに驚いている」と述べられた。同志社社史資料センターは当然のこととして校祖新島襄の妻である八重の資料を所蔵しているが、これまで知られていなかった資料や埋もれていた資料の発見が続い

ているため、今回の講演をその中間報告と位置づけられた。

始めに年譜を見ながら八重の生涯を概観し「明治元年に24歳だったということは近世的価値観を充分身に付けて近代を生きた女性である」と説明された。次に早くから八重に注目してきた福本武久によるノンフィクション『新島八重おんなの戦い』（角川書店 2012年刊）が紹介された。福本が八重を時代と闘う女性として描いているのに対して、露口氏は「日本の近代化の中で時代の大道を歩いた人に見える」と述べられた。

次に会津戊辰戦争の時代背景が説明された。会津藩の伝統や気風、幕末に京都守護職を引き受け、後に新政府に徹底的に叩かれることになった事情を述べられた。

最後に八重自身による戊辰戦争の回想談『八重子刀自談』が紹介された。後年の回顧談ではあるが、戊辰戦争が八重の生き方の原点だったと思われること、八重の生き方＝原因に拘泥せず逆境にあってもその時その時を生きる、が他の人の回顧談と比較することで浮かびあがってくると述べられた。（清野早苗）

見 学 同志社大学キャンパス

案内 小枝弘和氏、布施智子氏、
学生ツアーガイド（同志社大学）

情報交換会 見学終了後、同志社大学内、

SECOND HOUSE Will（寒梅館7階レストラン）にて情報交換会を開催した。司会は小松修氏（日本大学）が行った。開会挨拶は全国大学史資料協議会副会長校の田尻実氏（立命館大学）が、乾杯の音頭は小池聖一氏（広島大学）が務めた。新規入会会員、全国大会初参加者などの紹介があり、閉会の辞は会場校の落合万里子氏（同志社大学）が行った。

全国大学史資料協議会2012年度役員会議事録

(第122回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録)

日 時：2012年10月10日(水)

13:00～13:30

場 所：同志社大学今出川キャンパス
寧静館5階会議室

出 席：(東日本部会)

神奈川大学 慶應義塾大学

國學院大學 専修大学

大東文化大学 東海大学 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

(西日本部会)

大阪大学 関西大学 関西学院

同志社大学 広島大学 桃山学院

立命館大学 龍谷大学

全国大学史資料協議会事務局校
(大阪大学・菅真城氏)が司会とな
り、役員会を開催した。

議 題 (1) 2012年度総会・全国研究会の
運営について

事務局校(大阪大学)から、
2012年度総会・全国研究会の運
営について別添資料(全国大学
史資料協議会2012年度総会なら
びに全国研究会日程及び役員担
当表)に基づき説明がなされ、
この資料に従って運営されるこ
とが確認された。

(2) 2012-13年度役員の交代につ
いて

事務局校(大阪大学)から、
2012-13年度役員の交代につ
いて、下記のとおり提案がなされ
た。これを承認し、総会に諮る
ことにした。

全国大学史資料協議会

会 長 校 國學院大學

副会長校 立命館大学

事 務 局 日本大学

(3) 2012年度の東西両部会の共同
事業について

①『研究叢書13号』について

東日本部会事務局(日本大学)
から、『研究叢書13号』の費用按
分は、西日本部会：東日本部会
を1：2とする。また、研究叢
書の送付先(約90か所)への郵
送については、事務局(日本大
学)が担当する旨の提案がなさ
れ、異議なく了承された。

② 2013年度全国研究会の開催場
所について

東日本部会事務局(日本大
学)から、2013年度全国研究
会の開催場所について、下記
のとおり提案がなされ、審議の結
果、異議なく了承された。

開催時期：2013年10月頃

開催場所：東京神田地区

(お茶の水・水道橋周辺)

開催校：専修大学、日本大学、
中央大学、明治大学の4校共催

③ 全国大学史資料協議会20周年
事業について

東日本部会事務局(日本大
学)から、全国大学史資料協議
会20周年事業について、提案が
なされ、審議の結果、東日本部
会、西日本部会のそれぞれの幹
事会等で検討していくことが確
認された。

なお、広島大学から20周年事
業開催場所について、広島大学
で開催したい旨の申し出があっ
た。

全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録 第121回 2012年9月27日(木)

15時00分～17時00分

会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト
roomB

出 席 神奈川大学 國學院大學 専修大学
大東文化大学 東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
西山 伸 馬場 弘臣

議 題 (1) 2012年度総会・全国研究会について

事務局（日本大学）から、出欠届状況の報告があり、続いて役割分担・記録担当の交代について確認をした。

2013年度総会・全国研究会会場については、第120回幹事会で御茶ノ水界限に所在する大学の共同開催が承認されたことを受け、会場候補校である専修大学・中央大学・日本大学・明治大学4校で調整しながら進めることが承認された。

(2) 2012年度研究会について

研究会担当（東海大学）から今年度の企画について状況が報告された。12月研究会は13日（木）に東海大学湘南キャンパスで開催。1月は講演会形式の研究会とし、3月は特別事業ワーキンググループに関連した研究会とすることが了承された。

12月研究会について、馬場運営委員から詳細説明があった。

(3) 会員の入退会について

日本医科大学史料館（仮称）設立準備室・細見大作氏の入会、駒澤女子大学の休会が承認された。

(4) シンポジウム後援依頼について

事務局（日本大学）より、10月22日（月）に開催される情報保存研究会「第6回資料保存シンポジウム」の後援依頼について、本協議会として承諾した旨の報告があった。

(5) 特別事業ワーキンググループについて

ワーキンググループ担当西山氏より、8月29日（水）に開催された第1回打ち合わせ内容につ

いて説明があった。特別事業の内容としては、幅広い会員が参加できる「展示」を主軸として進めていくことが承認された。展示内容については、本年度3月の研究会の場で、会員全員で検討することが了承された。

(6) 研究叢書第13号について

研究叢書担当（日本大学）より、第13号の編集状況について9月27日（木）に納品予定で、全国総会で参加者に配付することが報告された。

第123回 2012年10月10日（水）

13時25分～13時40分

会 場 同志社大学今出川校地

寧静館5階会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大学
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学

議 題 (1) 2012年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、12月研究会を12月13日（木）、東海大学湘南キャンパスにて開催する旨の報告があり、東日本部会・東海大学による共同開催および研究会内容の確認がなされた。

2013年1月の研究会については、当日の担当校である専修大学と調整のうえ、専修大学神田キャンパスにてTRCC（東京修復保存センター）の担当者による研究会を検討している報告があった。開催日程は1月24日（木）の提案がなされ、承認された。

(2) 大学史関係展示アンケートなどについて

特別事業ワーキンググループにて検討している大学史展について、担当の松原氏（日本大

学)から、大学史展における展示内容の検討材料として、2008年度以降に会員が手がけた展示情報のアンケート実施および展示会資料などを収集したい旨の提案がなされ、了承された。回答は、集約ののち研究会などで報告されることとなった。

- (3) 会報の編集進捗状況について
会報編集担当(神奈川大学)より、次号No.47について、今年度の部会総会(於日本女子大学)の記事を中心に編集が進められ、予定通り10月末刊行となるとの報告があった。

第124回 2012年12月13日(木)

12時~12時40分

会 場 東海大学湘南キャンパス

15号館4F第2会議室

出 席 神奈川大学 慶応義塾 國學院大学
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学
西山 伸

議 題 (1) 2012年度総会・全国研究会の
総括について
・事務局(日本大学)から総会・
全国研究会参加者数の報告、会
計担当(大東文化大学)から経
費等についての報告を行った。

- (2) 2012年度研究会について
・研究会担当(東海大学)から、2013年1月研究会は24日(木)に専修大学神田キャンパスを会場として、東京修復保存センター担当者による講演であることが報告された。
・2013年3月研究会は、特別事業ワーキンググループによる「大学史展」プランを提案する内容になることが報告された。

- (3) 会報の発行について

・会報担当(神奈川大学)から、会報『大学アーカイヴズ』第47号を10月31日付で発行した旨報告があった。

- (4) 特別事業ワーキンググループについて

・西山氏から、11月28日(水)に開催した第2回ワーキンググループの詳細報告があり、2013年3月開催の研究会で具体的なプランを提案するとの報告があった。

- (5) 2013年度総会・全国研究会について

・2013年度総会・全国研究会は、専修・中央・日本・明治4大学が企画するもので、実行委員の明治大学村松氏から、日程や会場などの進捗説明があった。

- (6) その他

①2013年度東日本部会総会について
・事務局(日本大学)より、2013年度部会総会開催場所・会場校について選定する提案があり、引き続き検討することとなった。

第125回 2013年1月24日(木)

13時05分~13時50分

会 場 専修大学神田キャンパス

7号館3階731教室

出 席 神奈川大学 専修大学
大東文化大学 東海大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
西山 伸 馬場 弘臣

議 題 (1) 2012年度研究会について

・研究会担当(東海大学)より、2012年度研究会の開催状況について報告があり、次いで12月研究会の総括がなされた。3月研究会については、3月14日

(木) 明治大学において開催されることが確認され、特別事業(大学史展)に関する研究会となることが報告された。

- ・研究会アンケートについて、例年通り実施したいとする提案がなされた。アンケートは、3月を目途にメールなどで行ない次年度研究会の参考にすることにした。

- ・本日開催の第83回研究会について、講師謝礼を支払うことを確認した。

(2) 2013年度東日本部会総会について

- ・事務局(日本大学)より、2013年度東日本部会総会の会場校選定について提案があり、5月最終週の開催を確認した。会場校候補として複数校が推薦され、これら候補への打診について、事務局に一任された。

(3) 特別事業について

- ・西山氏から、本日の午前中に開催した第3回ワーキンググループでの検討内容が報告された。3月研究会は特別事業に関する研究会となることが確認され、内容は、本特別事業開催についての幹事会からの経緯報告、展示アンケートの集約結果、展示シミュレーション(2本)などを行ない、会員間の議論を通して、大学史展に向けた意見を聴取することにした。

(4) 会報について

- ・会報編集担当(神奈川大学)より、次号No.48について、今年度の総会・全国研究会(於同志社大学)の記事を中心に編集が進められているとの報告があった。

(5) その他

- ①事務局(日本大学)から、よ

り適正な会費運営のため、部会総会などにおける「参加費」金額を見直していく提案がなされた。収入・支出のシミュレーションなどを行ない、引き続き検討していくことにした。

②本日開催の幹事会・研究会会場(専修大学神田キャンパス7号館3階731教室)は、東日本部会担当の2013年度総会ならびに全国研究会における会場となることが紹介された。

全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

名 称 全国大学史資料協議会2012年度
全国研究会

(第81回東日本部会研究会)

テーマ 「大学アーカイヴズの社会貢献」

日 時 2012年10月11日(木)～12日(金)

会 場 10月11日(木) 同志社大学
今出川校地寧静館5階会議室
10月12日(金) 新島旧邸・裏千家
茶道資料館

出 席 <東日本部会>

愛知大学 愛知教育大学 学習院
神奈川大学 関東学院
国立音楽大学 慶應義塾
恵泉女学園 皇學館 國學院大學
国土館 駒澤大学 芝浦工業大学
淑徳大学 上智大学 女子美術大学
専修大学 創価大学 大東文化大学
拓殖大学 中央大学 東海大学
東京経済大学 東京農業大学
東北学院 東洋学園大学 獨協学園
富山大学 日本医科大学
日本体育大学 日本大学 法政大学
北海道大学 武蔵野美術大学
明治学院 明治大学 明星大学
立教大学 立正大学
阿部 伊作 馬場 弘臣
細見 大作

<西日本部会>

追手門学院大学 大阪女学院

大阪大学 大阪府立大学
大谷大学 関西大学 関西学院
京都産業大学 近畿大学
熊本大学 甲南大学
神戸女学院 西南学院
同志社大学 名古屋学院大学
梅花女子大学 広島大学
福岡大学 武庫川女子大学
桃山学院 立命館 龍谷大学
折田 悦郎 富岡 勝
橋本 弘之
東日本部会=41会員60名

(内訳: 38大学57名、個人他3名)

西日本部会=25会員38名

(内訳: 22大学35名、個人他3名)

総 計=66会員98名

(内訳: 60大学92名、個人他6名)

開会挨拶 國學院大學 齊藤 智朗氏

(全国大学史資料協議会会長校)

全国研究会テーマ 「大学アーカイヴズの社会貢献」

テーマの発題 大阪大学 菅 真城氏

(全国大学史資料協議会西日本部会庶務校)

報告1 折田 悦郎氏

(九州大学大学文書館)

「大学アーカイヴズと地域貢献—九州大学の歴史を通じて—」

[概要]

折田報告は、これまでの折田氏自身の歴史研究を踏まえた上で、九州大学と地域との関係について検討した同大学文書館における事例報告であった。九州大学は1911年に単独で九州帝国大学を名乗った時を創立としているが、その前史として、1903年に設立された福岡医科大学があった。折田氏はまず、『九大広報』特集号を資料として、医療単科大学であったことから医学士の各郡巡回など当初から地域とのつながりが強かったこと、修猷館館長隈本有尚や福岡の豪商渡辺与八郎などの活

動を中心としてみていくことで、大学の誘致・設置活動が地域の要請を受けて地域の力で進められたことを実証的に検討された。さらに九州大学および大学文書館を取り上げたさまざまな新聞記事等を紹介されながら、記事として取り上げられることの意義をアーカイヴズ、自校史教育、社会・地域貢献の視点から論じられた。以上のような論点から、大学史の研究が地域史の研究となり得ることの可能性を提起された。

(馬場弘臣)

報告2 小枝 弘和氏

(同志社大学同志社社史資料センター)

「福島と同志社—震災復興をめざして—」

[概要]

同志社は、2013年度のNHK大河ドラマ「八重の桜」の制作に関連して、2011年度よりNHKおよび福島県への協力を継続しておこなっている。これは東日本大震災からの復興を目指す福島県への支援を主たる目的としたもので、具体的には「同志社」創立者の一人である新島襄とその妻新島八重、およびその兄山本覚馬に関する学問的資料の調査・収集および提供である。学校法人同志社および同志社社史資料センターは、各種の取材やサイト公開による広告活動、さらには現地への調査員派遣や現地の展示への資料貸出など、さまざまなプロジェクトに参画し協力してきた。報告では、同志社社史資料センターがこれまで取り組んできた協力業務について具体的に紹介し、「大学アーカイヴズと社会貢献」という観点から、大学アーカイヴズが社会に対してどのように価値を発信し、またどのような貢献ができるのかについての提言がなされた。

(椿田卓士)

報告3 村松 玄太氏

(明治大学大学史資料センター)

「大学アーカイヴズ構築資源の有用性をどうアピールし社会連携するか?—明治大学史資料センターでの経験を踏まえて—」

〔概要〕

本報告では、大学の営み等に関する各種資料（有形）と、同資料に関する情報全般（無形）とを合わせて「大学アーカイヴズ構築資源」（以下、「資源」と略す）と呼び、担当者は「臨床医」のように、①「問診」（利用者のニーズを汲み上げる）、②「処方」（ニーズに応える「資源」を提示する）、③「効能」（利用者が「役に立った／立たなかった」と思う）のサイクルで、社会貢献の前に、まずは本務である「資源」の構築・公開を前提に、その有用性をアピールして、大学アーカイヴズの社会的認知を高めていくことが必要であるとの提起がなされた。「資源」活用の実践例として、2011年の明治大学創立130周年記念事業中の大学史関連事業において報告者が参画して展開された、同大学の国際交流への取り組みの歴史に基づいた「神田・神保町中華街」との連携による各種活動や、著名な卒業生の資料を活用した刊行物の発行や記念館の設置等を通じた、大学の理念や教育方針の学内外への周知活動などが示された。（齊藤智朗）

総括討論

司 会 小池 聖一氏（広島大学）

桑尾 光太郎氏（学習院大学）

パネリスト

折田 悦郎氏（九州大学）

小枝 弘和氏（同志社大学）

村松 玄太氏（明治大学）

〔概要〕

総括討論は、小池聖一氏（広島大学）、桑尾光太郎氏（学習院大学）

の司会進行で開始された。はじめに3報告に対する個別質問が行われた。質問は「自治体史と大学アーカイヴズとの連携」「資料のレファレンス・施設・人員・予算体制」

「新島八重像の変化や今後の研究の展望」等に関するものであり、報告者ごとに回答と補足説明を行った。続いて大会テーマである「大学アーカイヴズの社会貢献」に関する全体討論に移った。主な論点は、「マスメディアとの連携」「近隣縁縁機関等との連携」「教育・研究と社会貢献とのバランス」等であった。各パネリストいずれから、大学アーカイヴズにおける「社会貢献」の意味内容の不明確さについて意見が出され、社会貢献とはそもそも何かをめぐって意見が交わされた。最終的に資源を活用したイベントや自校史教育など、目に見える社会貢献の前提として、地道な資料の受け入れ・整理・編成が重要であり、それが長期的には、広い意味での社会貢献につながるのではないかと、という点を確認して討論を終了した。

（阿部裕樹）

*各報告と総括討論の詳細については、『研究叢書』第14号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶 立命館大学 田尻 実氏

（全国大学史資料協議会副会長校）

見学会 新島旧邸、裏千家茶道資料館

〔概要〕

10月12日の見学会は、まず同志社大学発祥の地でもある新島旧邸を訪れた。布施智子氏（同志社大学）より旧邸に関する概要説明を伺った後、見学に移った。旧邸は当時としては珍しくバルコニー付きの二階建てで、和に洋を取り入れた建築様式となっている。室内にはセントラル・ヒーティングと呼ばれる暖炉や

洋式トイレがあり、また、洋食器やワッフルベーカーが使用されていたことなどから、ふたりがいかにモダンな生活を送っていたかというのが垣間見えた。なお、これまで自由見学だったこの施設だが大河ドラマの放映に伴い、2012年9月より2013年12月まではインターネットによる予約制の見学となっているとのことである。

次に訪れたのは、裏千家茶道資料館。ここでは2グループに別れ、1グループが展示資料を見学の間、もう1グループがお抹茶をいただいた。

その後、裏千家今日庵に移動し、筒井紘一氏（茶道資料館副館長）に「新島八重と圓能斎」というタイトルでご講演頂いた。以前は99%男性が嗜むものだったお茶を女性にも広め、また“するお茶”から“学ぶお茶”というものに変えたのは八重と裏千家13代家元圓能斎のふたりだということだった。（阿久津朋子）

第82回 2012年12月13日（木）

13時00分～16時00分

会 場 東海大学湘南キャンパス
15号館 4F第一会議室

出 席 愛知教育大学 愛知大学 青山学院
学習院 神奈川大学 慶應義塾
國學院大學 国士舘大学
芝浦工業大学 自由学園 淑徳大学
上智大学 女子美術大学
聖路加看護大学 専修大学
創価大学 大東文化大学 拓殖大学
東海大学 東京経済大学
東京農業大学 東洋英和女学院
東洋学園大学 獨協学園 日本女子
大学 日本体育大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
明星大学 立教大学 立正大学
石田 順二 富田 美加 西山 伸
馬場 弘臣

森 嘉一（オブザーバー）

（以上52名）

開会の挨拶 蟹江 秀明氏
（東海大学常務理事）

会長挨拶 益井 邦夫氏
（國學院大學 校史・学術資産研究センター）

司 会 杏澤 宣賢氏
（東海大学学園史資料センター
副センター長）

報 告 馬場 弘臣氏
（東海大学教育研究所准教授）
「東海大学学園史資料センター資料
目録検索システムについて」

講 演 寺崎 昌男氏
（立教学院本部調査役・東京大学名
誉教授）
「学びがいのある大学づくりと
学園史・アーカイブスの役割」

概 要 2012年12月13日に東海大学湘南
キャンパスで開催された第82回研
究会では、馬場弘臣氏（東海大学教
育研究所、同資料編纂委員会委員）
による「東海大学学園史資料セン
ター学園史資料目録Web検索シス
テムについて」および寺崎昌男氏（立
教学院本部調査役、東京大学・桜美
林大学名誉教授）による「学びがい
のある大学づくりと学園史・アーカ
イブスの役割」の二本の講演があった。

馬場氏の講演は、2012年10月31
日に公開を開始したWeb検索シス
テムの概要紹介であった。多様な形態
をもつ所蔵資料のすべてを検索の対
象としたこと、資料を「資料群」単
位ではなく学校別・校舎別に階層づ
けを行ったこと、新聞・学内誌等の
刊行物の記事見出し・目次もデー
タベース化したこと、などの特徴が紹
介された。そして、検索システムの
実演ののち、今後さらにアーカイ
ブズ機関として資料を公開していく
意識改革を学内で実践していきたいと

のまとめがあった。

寺崎氏の講演は、大学が様々な問題を抱えている現在こそ、大学の本質とは何かを何度も確認する必要がある、そのためにも沿革史やアーカイヴズの存在が不可欠であることを、自身の経験をもとに論じたものであった。特に、水準向上の著しい沿革史においては、自らの大学の「選択の歴史」の解明が求められること、アーカイヴズにおいては外部に対する説明の機能が重要であること、が強調された。そして、今の学生たちが求めている帰属感にいかに応えていくかが大学に求められており、その対応の一つが沿革史から発展してきた「自校（史）教育」であるとした。

なお、本研究会は東海大学との共催で行われた。（西山伸）

第83回 2013年1月24日（木）

14時00分～16時00分

会 場 専修大学神田キャンパス

7号館3階731教室

出 席 愛知大学 青山学院 学習院
神奈川大学 国立音楽大学
工学院大学 國學院大学
国際基督教大学 芝浦工業大学
淑徳大学 女子美術大学 聖路加看護大学 専修大学 大東文化大学
拓殖大学 中央大学 東海大学
東京家政大学 東京女子医科大学
東京農業大学 東邦大学 東北大学
東洋英和女学院 東洋学園大学
獨協学園 日本医科大学 日本体育大学 日本大学 武蔵野美術大学
明治大学 明星大学 立教大学
立正大学
桂 典子 西山 伸 馬場 弘臣
（以上48名）

開会の挨拶 青木 美智男氏

（専修大学史編集主幹）

会長挨拶 益井 邦夫氏

（國學院大学校史・学術資産研究センター）

司 会 瀬戸口 龍一氏

（専修大学大学史資料課）

講 演 児島 聡氏

（(有)東京修復保存センター）

「資料の保存とアーカイブについて—大学アーカイブとプリザベーション」

概 要 2013年1月24日（木）83回研究
会は専修大学に於いて、（有）東京
修復保存センターの児島聡氏を講師
に迎え、「資料の保存とアーカイブ
について 大学アーカイブとプリザ
ベーション」というテーマのもと講
演いただいた。

資料保存のためのキーワードとして、「コンサベーション」「プリザベーション」という言葉をどう理解するか。保存、保護、修復といった定義・認識から進めて、それぞれ「戦術」「戦略」と位置付けた東大・小島浩之氏の提案を紹介し、その概念に基づいたサービスを考えたとき、大学アーカイブの業務内容に「プリザベーション・アドミニストレーター（保存管理者）」という存在が必要となるのではないかとの指摘があった。また、「スマートファイリング（スマファイ）」という技術を提案されたが、これは現状の中性紙に頼った保存方法のみでなく、その欠点問題点を補う素材で中期的に資料保存を行えるようなファイリング技術であるという。大学史資料の保存・利用への活用を期待したい。

上記の講演に対して、スマファイはどの程度の保存に耐えることを想定しているのか、その素材は何かなど活発な質疑応答がなされた。

（浅沼薫奈）

全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿
(2013年01月24日現在)

【名誉会員】

竹市 知弘・城田 秀雄・東田 全義・

鈴木 秀幸・石田 順二

【機関会員】担当部課室／住所・電話他

- 1 愛知医科大学 アーカイブズ
〒480-1195 長久手市岩作雁又1-1
電話:0561-62-3311 (内) 1265
FAX:0561-62-4662
URL :<http://www.aichi-med-u.ac.jp/amua/>
- 2 愛知教育大学 大学教育研究センター
愛知教育大学史資料部門
〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1
電話/FAX :0566-26-2293
- 3 愛知大学 豊橋研究支援課
〒441-8522 豊橋市町畑町1-1
電話:0532-47-4579
FAX:0532-47-4129
URL:<http://www.aichi-u.ac.jp>
- 4 青山学院 資料センター
〒252-5258 相模原市中央区
淵野辺5-10-1
大学相模原キャンパスN403
電話:03-3409-6742
(内線:11345, 11346)
FAX:03-3409-8134
URL:<http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/index.html>
- 5 学習院 学習院アーカイブズ
〒171-8588 豊島区目白1-5-1
電話:03-3986-0221 (内2531)
FAX:03-5992-1394
URL:<http://www.gakushuin.ac.jp/ad/archives/>
- 6 神奈川大学 大学資料編纂室
(運営委員・事務局)
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋
3-27-1
電話:045-481-5661
FAX:045-491-7915
URL:<http://archives.kanagawa-u.ac.jp/>
- 7 関東学院 学院史資料室
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
電話:045-786-7066
FAX:045-786-2932
URL:<http://www.kanto-gakuin.ac.jp>
- 8 国立音楽大学 校史編纂準備室
〒190-8520 立川市柏町5-5-1
電話:042-535-9512
FAX:042-537-6356
URL:<http://www.kunitachi.ac.jp/>
- 9 慶應義塾 福澤研究センター
(監査委員)
〒108-8345 港区三田2-15-45
電話:03-5427-1604
FAX:03-5427-1605
URL:<http://www.fmc.keio.ac.jp>
- 10 恵泉女学園 史料室
〒156-0055 世田谷区船橋5-8-1
電話/FAX :03-3303-6920
- 11 工学院大学
創立125周年記念事業事務局
(125年史編纂委員会事務局)
〒163-8677 新宿区西新宿1-24-2
電話:03-3342-1211 (代)
:03-3340-1449 (事務局)
FAX:03-3345-0228
- 12 皇學館 館史編纂室
〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704
電話:0596-22-6817
- 13 國學院大學 校史・学術資産研究センター
(会長)
〒150-8440 渋谷区東4-10-28
電話:03-3797-3684
FAX:03-5466-9237
URL:<http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/>
- 14 国際基督教大学 図書館大学史資料室
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2
電話:0422-33-3306,3308
FAX:0422-33-3305
- 15 国士館 国士館史資料室
〒154-8515 世田谷区世田谷4-28-1
柴田会館2階
電話:03-3418-2691
FAX:03-3418-2694
URL:<http://www.kokushikan.ac.jp>
- 16 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1
電話:03-3418-9613
FAX:03-3418-9611
URL:<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/zenbunka/>

- 17 実践女子学園 総務部学園史資料室
〒191-8510 日野市大坂上4-1-1
電話:042-585-8945
FAX:042-585-8808
- 18 芝浦工業大学 入試・広報部広報課
〒135-8548 江東区豊洲3-7-5
電話:03-5859-7070
FAX:03-5859-7071
URL:<http://www.shibaura-it.ac.jp>
- 19 自由学園 自由学園資料室
〒203-8521 東久留米市学園町1-8-15
電話/FAX:042-422-1097
URL:<http://www.jiyu.ac.jp/>
- 20 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200
電話:043-265-7526
FAX:043-265-8310
URL:<http://www.shukutoku.ac.jp/archives/>
- 21 上智大学 資・史料室
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1
電話:03-3238-3294
FAX:03-3238-3539
URL:<http://www.sophia.ac.jp>
- 22 女子美術大学 歴史資料室
〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8
電話:03-5340-4658
FAX:03-5340-4683
- 23 成蹊学園 史料館
〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話:0422-37-3994
FAX:0422-37-3298
URL:<http://www.seikei.ac.jp>
- 24 成城学園 教育研究所
〒157-8511 世田谷区成城6-1-20
電話:03-3482-1484
FAX:03-3482-5272
URL:<http://www.seijogakuen.ed.jp/>
- 25 聖路加看護大学 大学史編纂・資料室
〒104-0044 中央区明石町10-1
電話:03-3546-0770
FAX:03-3546-3575
- 26 専修大学 総務部大学史資料課
(運営委員)
〒101-8425 千代田区神田神保町3-8
電話:03-3265-5879
FAX:03-3265-5923
- 27 創価大学 創価教育研究所
〒192-8577 八王子市丹木町1-236
電話:042-691-5623
FAX:042-691-5654
URL:<http://office.soka.ac.jp/faculty/edu-research/>
- 28 大東文化大学 大東文化歴史資料館
(大東アーカイブス)
(会計委員)
〒175-0083 板橋区徳丸2-19-10
電話:03-5399-7646
FAX:03-5399-7647
URL:<http://www2.daito.ac.jp>
- 29 拓殖大学 創立百年史編纂室
〒112-8585 文京区小日向3-4-14
電話:03-3947-7140
FAX:03-3947-7294
- 30 玉川大学 教育博物館
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
電話:042-739-8656
FAX:042-739-8654
URL:<http://www.tamagawa.jp/research/museum/>
- 31 多摩美術大学 大学史編纂室
〒158-8558 世田谷区上野毛3-15-34
電話:03-3702-1168
FAX:03-3702-9416
- 32 中央大学
入学センター事務部大学史編纂課
〒192-0393 八王子市東中野742-1
電話:0426-74-2132 (直)
FAX:0426-74-2203
- 33 津田塾大学 津田梅子資料室
〒187-8577 小平市津田町2-1-1
電話:042-342-5219
FAX:042-342-5249
- 34 東海大学 学園史資料センター
(副会長)
〒259-1292 平塚市北金目4-1-1
東海大学同窓会館2F
電話:0463-50-2450
FAX:0463-50-2449
URL:http://www.u-tokai.ac.jp/shiryo_center/
- 35 東京家政大学
広報連絡会議 (総務部総務課)
〒173-8602 板橋区加賀1-18-1

- 電話:03-3961-5226
FAX:03-3962-7135
URL :<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>
- 36 東京経済大学 秘書課史料委員会
〒185-8502 国分寺市南町1-7-34
電話:042-328-7955
FAX:042-328-5900
URL :<http://www.tku.ac.jp>
- 37 東京女学館 史料編纂室
〒150-0012 渋谷区広尾3-7-16
電話:03-3400-0861
FAX:03-3407-5995
URL :<http://www.tjk.jp/>
- 38 東京女子医科大学
史料室・吉岡彌生記念室
〒162-8666 新宿区河田町8-1
電話:03-3353-8111 (内22213)
FAX:03-3353-8209
URL :<http://www.twmu.ac.jp/home/founder/yayoi.html>
- 39 東京女子大学
大学運営部総務課大学資料室
〒167-8585 杉並区善福寺2-6-1
電話:03-5382-6320 (代表)
FAX:03-3395-1037
- 40 東京電機大学 経営企画室
〒120-8551 足立区千住旭町5番
電話:03-5284-5125
FAX:03-5284-5180
URL :<http://www.dendai.ac.jp/>
- 41 東京農業大学
学術情報センター (図書館)
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
電話:03-5477-2526
FAX:03-5477-2646
- 42 東邦大学 額田記念東邦大学資料室
(法人本部経営企画部)
〒143-8540 大田区大森西5-21-16
電話:03-5763-6697
FAX:03-3768-0660
URL :<http://www.archives.toho-u.ac.jp/>
- 43 東北学院 広報部広報課
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
電話:022-264-6423 (代表)
FAX:022-264-6478
URL :<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>
- 44 東北大学 史料館
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
電話:022-217-5040
FAX:022-217-4998
- 45 東洋英和女学院 史料室
〒106-8507 港区六本木5-14-40
電話:03-3583-3166 (直)
FAX:03-3583-3329 (直)
URL :<http://www.toyoeiwa.ac.jp>
- 46 東洋学園大学 東洋学園史料室
〒113-0033 文京区本郷1-26-3
電話:03-3811-2840
FAX:03-3811-5176
URL :<http://www.tyg.jp/tgu/toyo/archiv.html>
- 47 東洋大学 井上円了記念学術センター
〒112-8606 文京区白山5-28-20
電話:03-3945-7555
FAX:03-3945-7601
URL :<http://www.toyo.ac.jp/enryo/index.html>
- 48 東洋大学校友会
〒113-0021 文京区本駒込1-10-2
雨水会館内
電話:03-3946-9111
FAX :03-3946-6311
URL :<http://www.alumni-toyo.jp>
- 49 獨協学園
獨協学園史調査研究資料センター
〒340-0042 草加市学園町1-1
電話:048-946-1802
FAX:048-942-4312
URL :<http://www.dac.ac.jp/>
- 50 富山大学 学務部学務グループ
〒930-8555 富山市五福3190
電話:076-445-6031
FAX:076-445-6034
- 51 南山大学 史料室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
電話:052-832-3111 (内3120・3121)
FAX:052-833-6985
URL :<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/archives/>
- 52 日本医科大学
史料館 (仮称) 設立準備室
〒113-0032 文京区弥生1-4-14
日本医科大学弥生2号館3階

- 電話:03-3868-9161
FAX:03-3868-9209
- 53 日本女子大学 成瀬記念館
〒112-8681 文京区目白台2-8-1
電話:03-5981-3376
FAX:03-5981-3378
URL:http://www.jwu.ac.jp/grp/naruse_memorial
- 54 日本体育大学 図書館
〒158-8508 世田谷区深沢7-1-1
電話:03-5706-0907
FAX:03-5706-0913
URL:[http://library.nittai.ac.jp/lib/~index.html](http://library.nittai.ac.jp/lib/~/index.html)
- 55 日本大学 広報部大学史編纂課
(運営委員・事務局)
〒359-0003 所沢市中富南4-25
電話:04-2996-4555
FAX:04-2996-4592
URL:<http://www.nihon-u.ac.jp>
- 56 法政大学
総長室企画・秘書課大学史担当
〒102-0073 千代田区九段北4-3-32
一口坂TSビル4階
電話:03-5212-4108
FAX:03-5212-4109
URL:<http://www.hosei.ac.jp/>
- 57 北海道大学 大学文書館
〒060-0808 札幌市北区北8西5
北海道大学附属図書館4階
電話/FAX:011-706-2395 (内線2395)
URL:<http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/>
- 58 武蔵学園 記念室
〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1
電話:03-5984-3748
FAX:03-5984-4785
URL:<http://www.musashi.jp/archives>
- 59 武蔵野美術大学 大学史史料室
(監査委員)
〒187-8505 小平市小川町1-736
電話:042-342-6091
FAX:042-342-9547
URL:<http://www.musabi.ac.jp/history>
- 60 明海大学
浦安キャンパスメディアセンター (図書館)
〒279-8550 浦安市明海1丁目
電話:047-350-4997
- FAX:047-355-7992
URL:<http://opac.meikai.ac.jp/opac/>
- 61 明治学院 歴史資料館
〒108-8636 港区白金台1-2-37
電話/FAX:03-5421-5170
URL:<http://www.siryokan.meijigakuin.jp/>
- 62 明治大学 大学史資料センター
(会計委員)
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
電話:03-3296-4085・4329
FAX:03-3296-4086
URL:<http://www.meiji.ac.jp/history/>
- 63 明星大学 明星教育センター
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
電話:042-591-6534
FAX:042-591-6949
- 64 立教大学 立教学院史資料センター
〒171-0021 豊島区西池袋3丁目
電話/FAX:03-3985-2790
URL:<http://www.rikkyo.ne.jp/web/z3000450/index.html>
- 65 立正大学 総務部総務課史料編纂室
〒141-8602 品川区大崎4-2-16
電話:03-3492-2681
FAX:03-5487-3338
URL:<http://www.ris.ac.jp>
- 66 早稲田大学 大学史資料センター
〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町513
早稲田大学研究開発センター
120-1号館5階
電話:03-5286-1814
FAX:03-5286-1815
URL:<http://www.waseda.jp/archives/>
- 67 駒澤女子大学 IR・広報部 (休会中)
〒206-8511 稲城市坂浜238
電話:042-350-7212 (直)
FAX:042-331-1919
- 68 聖学院大学 企画総務課 (休会中)
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
電話:048-781-0925
FAX:048-726-2962
- 69 千葉商科大学
総務課史料編纂担当 (休会中)
〒272-8512 市川市国府台1-3-1
電話:047-372-4111
FAX:047-373-4283

- 70 東京基督教大学
歴史資料保存委員会（休会中）
〒270-1347 印西市内野3-301-5-1
電話:0476-46-1131
FAX:0476-46-1405
- 71 名古屋大学 大学文書資料室（休会中）
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話:052-789-2046
FAX:052-788-6222
- 72 日本工業大学 総務課（休会中）
〒345-8501 南埼玉郡宮代町学園台4-1
電話:0480-34-4111（代）
FAX:0480-34-2941
- 73 宮城学院 資料室（休会中）
〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
電話:022-279-7765
FAX:022-279-4667
- 74 立教女学院 学院資料室（休会中）
〒168-8616 杉並区久我山4-29-60
電話:03-3334-5105
FAX:03-3334-8393
URL: <http://www.rikkyo.ne.jp/grp/jogakuin-shiryo/>

【個人会員】

- 1 阿部 伊作（東京基督教大学図書館）
- 2 安藤 正人（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）
- 3 石原 一則（神奈川県立公文書館）
- 4 伊藤 純郎（筑波大学人文社会系）
- 5 上田 紘代（東京女学館中学校・高等学校）
- 6 内山 宏（日本図書館協会・日仏図書館情報学会・経済資料協議会）
- 7 大沢 泉（八戸大学）
- 8 小川千代子（国際資料研究所）
- 9 神谷 智（愛知大学文学部）
- 10 桂 典子（国立女性教育会館情報課）
- 11 北村 和夫（聖心女子大学文学部）
- 12 工藤 元（株式会社ニチマイ）
- 13 倉方 慶明（東京外国語大学大学院博士前期課程）
- 14 坂口 貴弘（京都大学大学文書館）
- 15 谷本 宗生（東京大学史料室）
- 16 寺崎 弘康（神奈川県立歴史博物館）
- 17 富田 美加（茨城県立医療大学）
- 18 中村 青志（東京経済大学）
- 19 中村 治人（岡崎女子短期大学）

- 20 西山 伸（副会長・京都大学大学文書館）
- 21 野澤 和範
- 22 橋本久美子（東京芸術大学総合芸術アーカイブセンター大学史料室）
- 23 馬場 弘臣（運営委員・東海大学教育研究所）
- 24 藤田 正（愛媛県歴史文化博物館）
- 25 藤田 茂（独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)事業推進部広報課）
- 26 古郡 信幸（清泉女子大学）
- 27 細見 大作（細見工業株式会社）
- 28 細井 守（藤沢市教育委員会生涯学習課博物館準備担当）
- 29 堀田慎一郎（名古屋大学大学文書資料室）
- 30 松山 龍彦（国際基督教大学人事部）
- 31 三浦 和己（株式会社IMAGICA東京映像センターフィルムプロセス部）
- 32 吉川 隆博

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学・広報部大学史編纂課】

〒 359-0003
埼玉県所沢市中富南 4-25
☎ 04-2996-4555

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒 221-8686
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
☎ 045-481-5661

会 報 編 集

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒 221-8686
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
☎ 045-481-5661